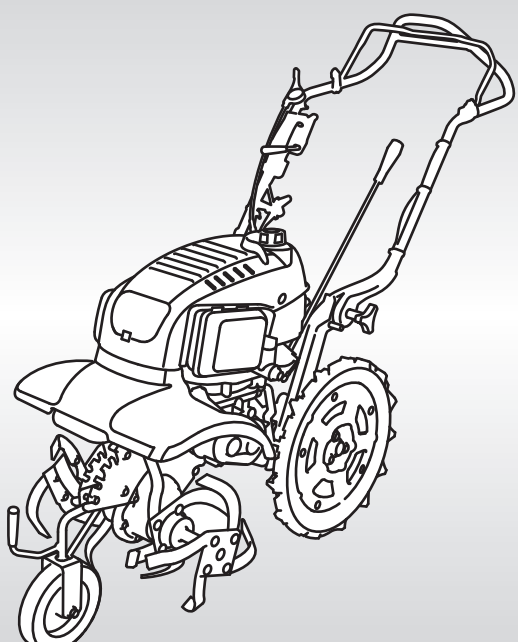
HONDA

耕うん機

FF300

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。
お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店**にお気軽にお申しつけください。

一般公道での走行はできません。
(本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。)
夜間作業はできません。
(本機は作業灯が装備されていません。)
水田での使用はできません。
(本機は耐泥水構造になっていません。)

取扱説明書について
この取扱説明書は
- 作業をするときは、必ず携帯してください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはサービス店にご注文ください。

本製品は、(一社) 日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

本製品は安全性検査の認定を取得しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう... 4
安全ラベル ... 9

サービスと保証について ... 10

各部の名称と取扱いをおぼえましょう ... 11
エンジンスイッチ ... 13
エンジン回転調整レバー ... 13
始動グリップ ... 14
主クラッチレバー ... 14
変速レバー ... 15
デフロックレバー ... 15
チョークノブ ... 16
燃料コックつまみ、ドレンつまみ ... 16
前車輪 ... 17
ハンドル高さ調整ダイヤル ... 18
アタッチメント取付け部 ... 18
ニュー M 型ヒッチ（LHTS タイプ） ... 19

作業前に点検・調整しましょう ... 20
作業前の点検 ... 20
ハンドルの準備 ... 21
燃料の点検 ... 23
エンジンオイルの点検 ... 25
エアクリーナー（空気清浄器）の点検 ... 27
耕うん深さ（耕深）の調整 ... 28
耕うん幅の調整 ... 29
後車輪取付けピンの点検 ... 31
耕うん爪（ロータリー）、ハンドル高さ調整ダイヤルの
締付け点検 ... 32
アタッチメント（作業機）の取付け（LHTS タイプ） ... 33

エンジンのかけかた ... 34

運転操作のしかた 39
変速 39
運転 41
耕うん作業 44

エンジンのとめかた 45

定期点検を行いましょう 48

点検・整備のしかた 49
エンジンオイルの交換 49
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃 52
クラッチケースオイルの点検 53
変速機オイルの点検 54
点火プラグの点検・調整・交換 55
エンジン回転調整ケーブルの点検・調整 57
主クラッチケーブルの調整 58
デフロックレバーケーブルの調整 59
耕うん爪（ロータリー）の点検・交換 60

使用後の手入れ 64

長期間使用しないときの手入れ 65

故障のときは 67

車への積載のしかた 68
車の荷台への積載 68

主要諸元 70

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

• 作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。
- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。

警告

- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンを回しながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

・作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できることを確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - 急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - 傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向（等高線方向）に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - 傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。
  - 傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - 傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを前進１速 、前進２速または後進にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - 急傾斜、溝または畦越えを行うときは、本機、作業機の重量に十分耐えられるアユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所で確実に固定してください。
- 爪（ロータリー）は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。
  - エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - 作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外して行ってください。（55 頁参照）また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - 作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  - 作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外し（55 頁参照）、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。ガソリンを補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ガソリンを補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ガソリンはこぼさないように注意し、所定のレベル（給油限界位置）を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もしガソリンがこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを前進１速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 耕うん作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

•作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラー（消音器）は非常に熱くなっています。特にマフラーは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。ヤケドをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディーカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

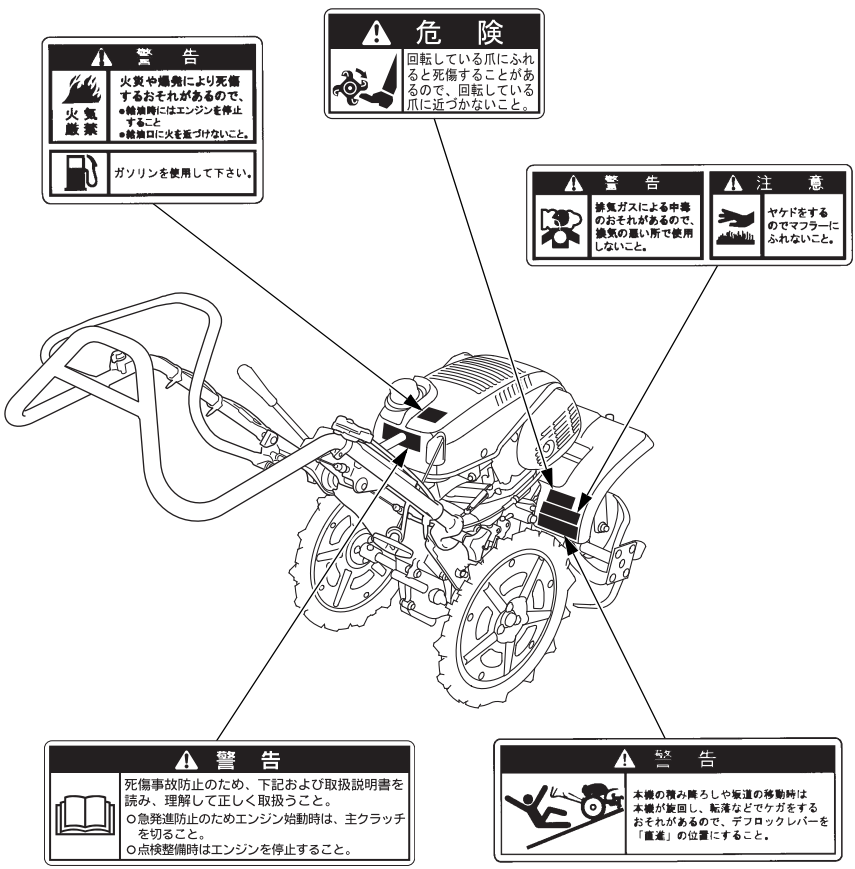
警告

• 積み降ろしおよび運搬時

• 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
  • 荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  • 積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  • 積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  • エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  • 使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に十分耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのある車輪幅以上の幅が十分あるものを使用してください。
  • アユミ板の傾斜角度が 15 度以下になるような長さのものを使用してください。（目安として荷台の高さの４倍の長さ）
  • アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  • 耕うん爪（ロータリー）装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
  • 積み込みは前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
  • デフロックレバーはかならず “直進” にしてください。
  • アユミ板に乗る前に、車輪とアユミ板が一直線であることを確認してください。
  • 本機は１速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを絶対に放さないでください。
  • 積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを前進１速に入れてください。
  • 燃料コックは “閉” にして運搬してください。
  • 荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお問い合わせください。



サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機（機体番号）をご連絡くださるようお願いいたします。

LT2S 区分（タイプ）



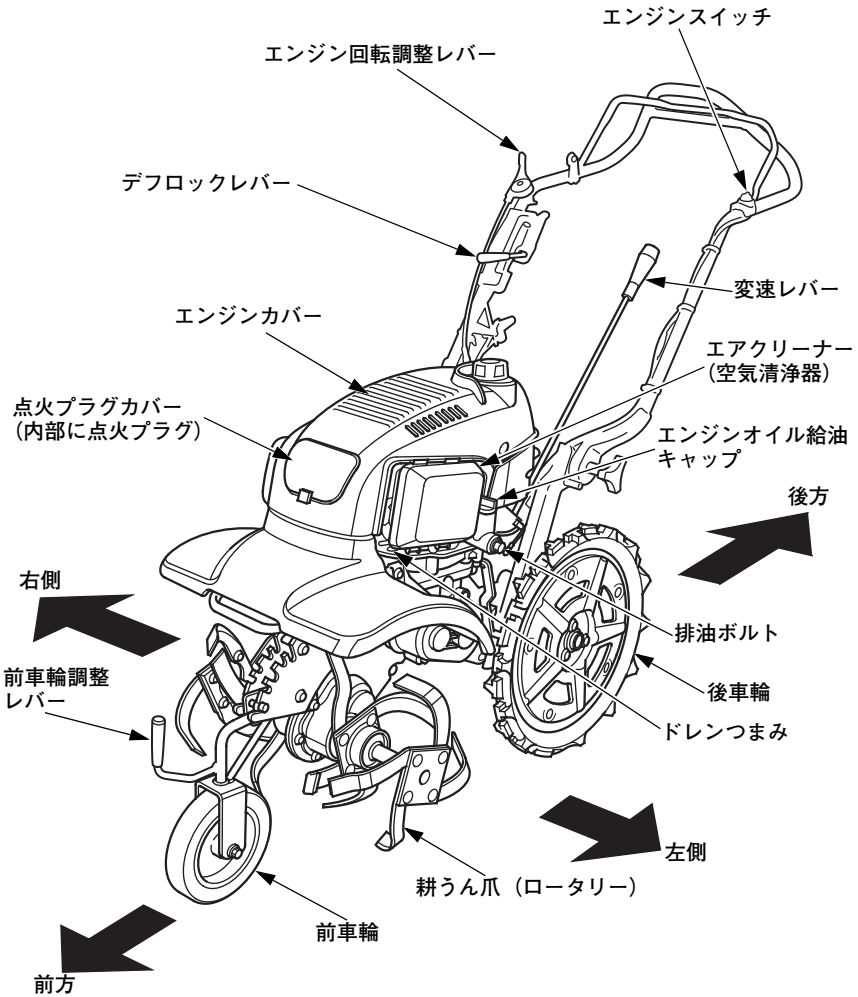
LHTS 区分（タイプ）

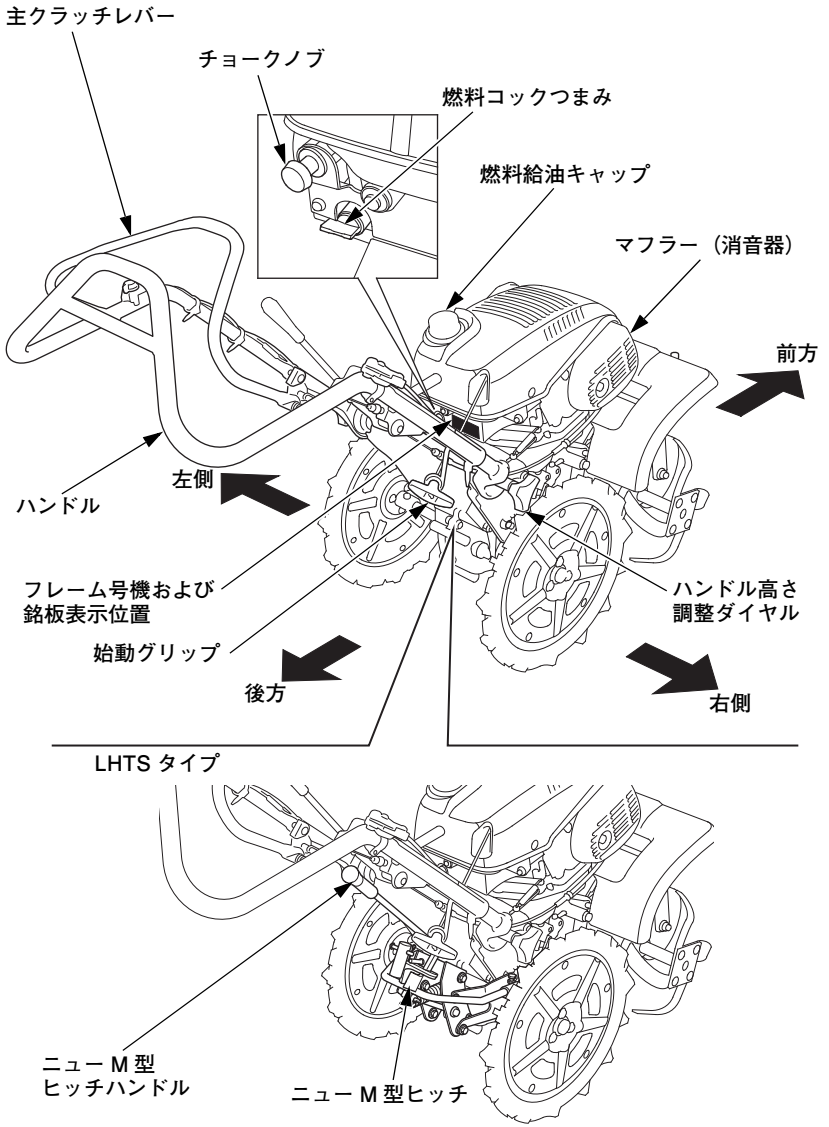


※ フレーム号機および銘板の表示位置は 12 頁をご覧ください。

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

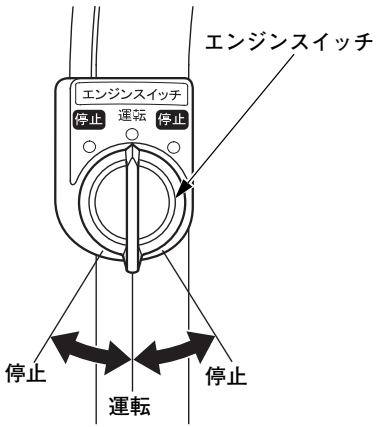



主クラッチレバー
チョークノブ
燃料コックつまみ
燃料給油キャップ
マフラー（消音器）
前方
左側
ハンドル
フレーム号機および
銘板表示位置
始動グリップ
後方
ハンドル高さ
調整ダイヤル
右側
LHTS タイプ
ニュー M 型
ヒッチハンドル
ニュー M 型ヒッチ

エンジンスイッチ

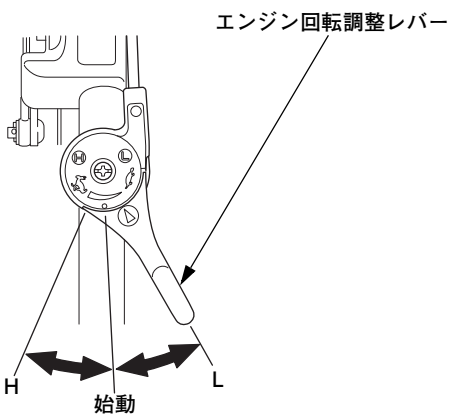
エンジンスイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。





エンジン回転調整レバー

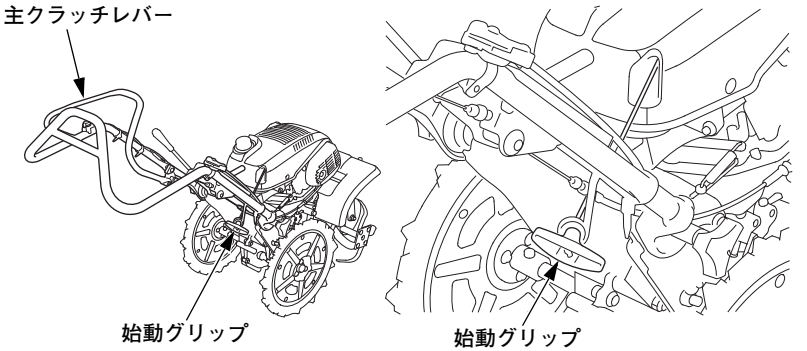
エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



H… エンジン回転が上がります
始動 … エンジンを始動するときの位置です
L… エンジン回転が下がります

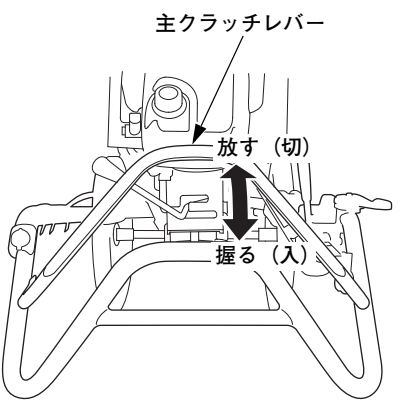
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



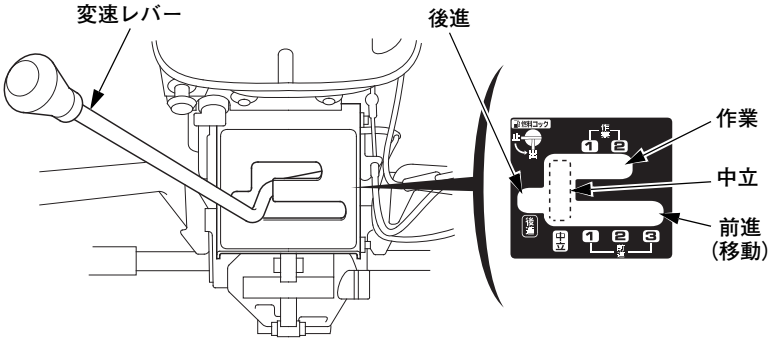
主クラッチレバー

主クラッチは、車輪および耕うん爪（ロータリー）への動力を断続する装置です。
主クラッチレバーを握ると動力が伝わり、放すと動力が切れます。



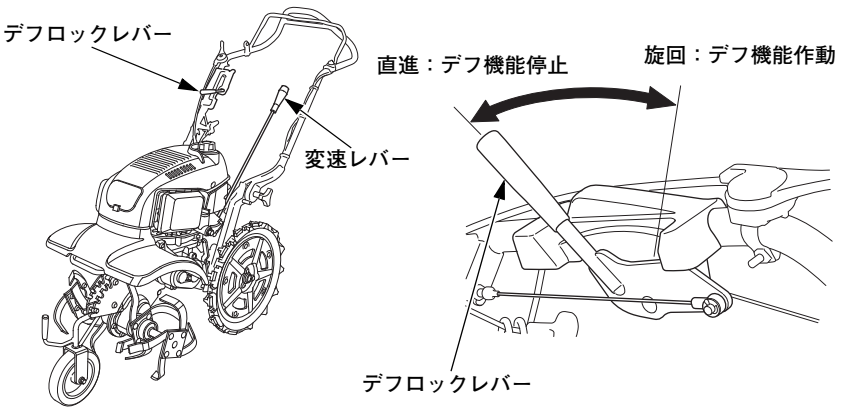
変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。
作業位置でのみ耕うん爪（ロータリー）が回転します。



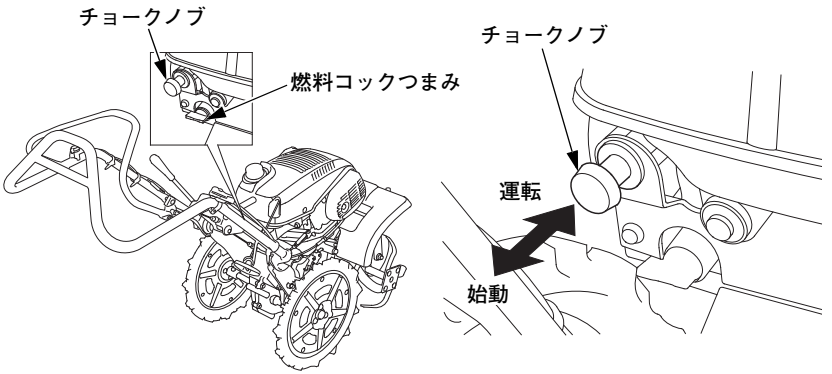
デフロックレバー

デフ機能を作動、停止するレバーです。
“旋回”：デフ機能が働き、旋回性が向上します。
“直進”：デフ機能がロックされ、直進性が向上します。



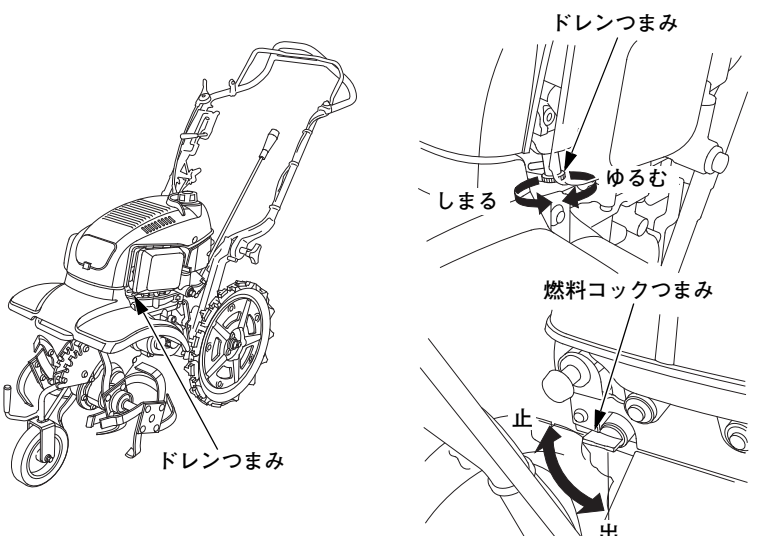
チョークノブ

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



燃料コックつまみ、ドレンつまみ

燃料コックつまみは、タンクの燃料を出したり止めたりするときに操作します。
ドレンつまみは燃料を抜くときに操作します。燃料の抜きかたは 65 頁を参照してください。

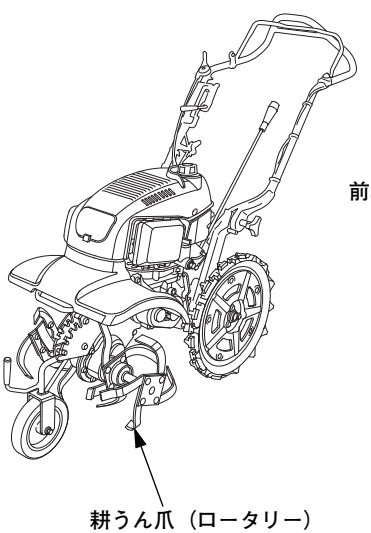


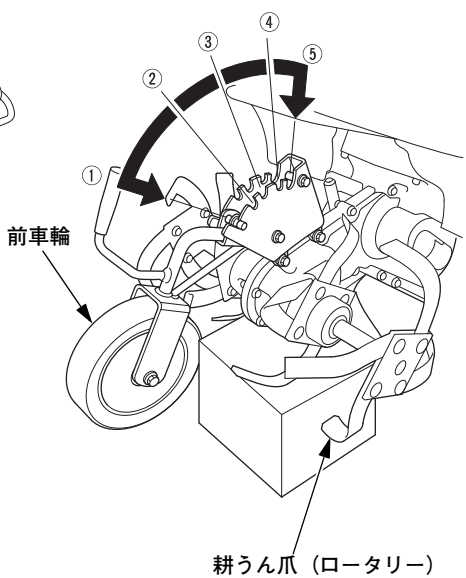
前車輪

前車輪の高さは、移動や耕うん深さ（耕深）により 5 段階に調整できます。（調整のしかたは 28 頁参照）

・LHTS タイプでニュー M 型ヒッチにアタッチメント（作業機）を取付けて作業するときは、前車輪の高さを②または③の位置にしてください。

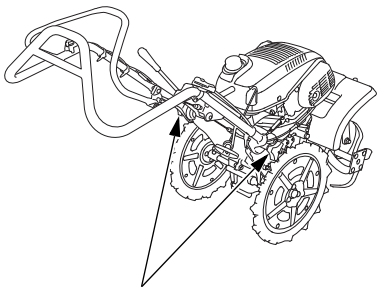
① ・・・・・・・・移動するときの位置（地面よりロータリーが約 40 mm アップ）
② ・・・・・・・・耕うん深さを最も浅くする（耕深約 20 mm）
③ ・・・・・・・・耕うん深さを浅くする（耕深約 60 mm）
④ ・・・・・・・・耕うん深さを深くする（耕深約 120 mm）
⑤ ・・・・・・・・耕うん深さをより深くする（耕深約 160 mm）

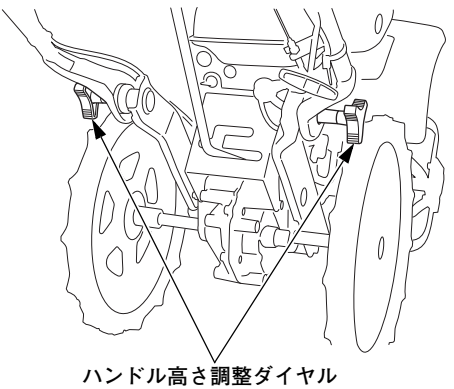




ハンドル高さ調整ダイヤル

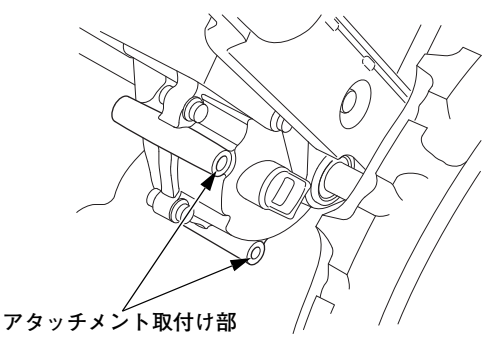
ハンドルの高さを作業内容や運転者の身長に合わせるダイヤルです。ダイヤルで締付けて固定します。
ハンドルの高さを 2 段階に調整できます。（調整は 21、22 頁参照）





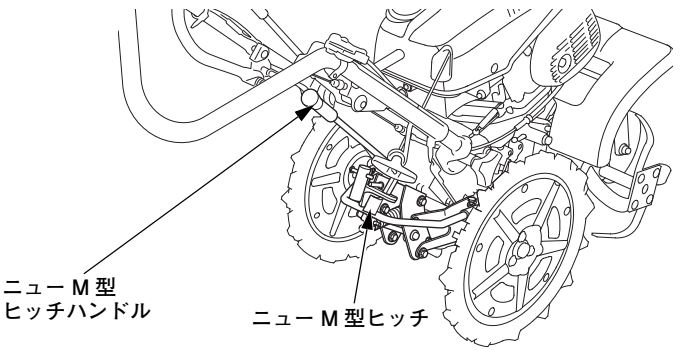
アタッチメント取付け部

アタッチメントを取付けるときに使用します。
LHTS タイプにはニュー M 型ヒッチが取付けられています。



ニュー M 型ヒッチ（LHTS タイプ）

アタッチメント（作業機）を取付けるときに使用します。
ニュー M 型ヒッチにアタッチメント（作業機）を取付けて作業するときはニュー M 型ヒッチハンドルを下げます。
ニュー M 型ヒッチからアタッチメント（作業機）を取外したときやアタッチメント（作業機）を使用しないで移動、旋回するときは、ニュー M 型ヒッチハンドルを上げます。



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所で本機を水平（耕うん爪と後車輪が接地した状態）にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを外してください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり ・・・・・・・・・・・燃料の量（23、24 頁参照）、オイルの量（25 頁参照）が規定量入っていること。
  燃料の漏れ、オイルの漏れがないこと。
  エンジン周りのゴミ、ワラ等の付着がないこと。
- 主クラッチレバー、
  エンジン回転調整レバー、
  デフロックレバーの
  作動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・引っかかりがないこと。
  スムーズに作動すること。
- 各部の締付け ・・・・・・・・・・・ハンドルにゆるみ、ガタがないこと。
  ボルト、ナットにゆるみがないこと。
- 配線、ケーブル類 ・・・・・・・被覆の破れ、切れがないこと。
  配線、ケーブルのはさまりがないこと。
- エンジンの始動、停止 ・・・点火プラグキャップを点火プラグに取付け、エンジンを始動し、異音がないこと。（始動手順は 34 ～ 38 頁参照）
  エンジンスイッチで確実に停止すること。（停止手順は 45 ～ 47 頁参照）
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店またはサービス指定店へお申しつけください。

ハンドルの準備

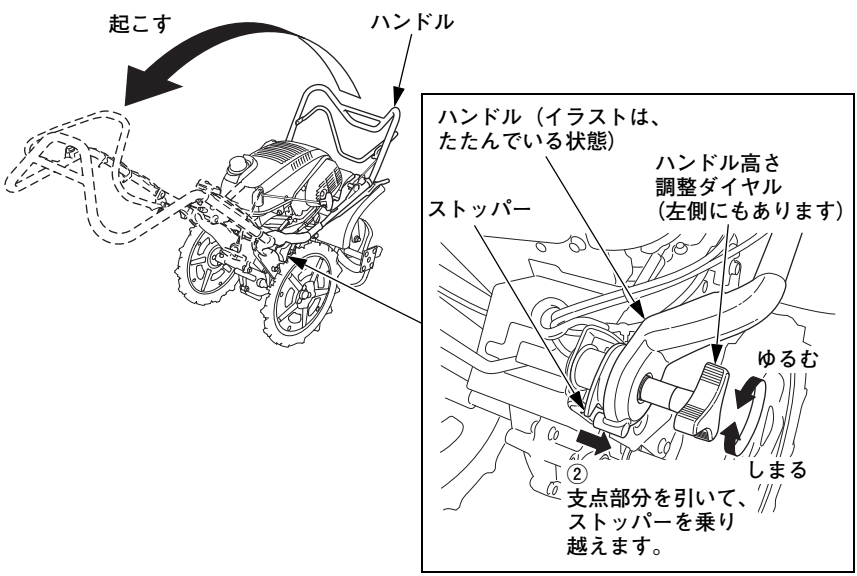
ハンドル高さ調整ダイヤルをゆるめてハンドルを起こし、使いやすい高さに合わせて固定してください。
ハンドル高さを、作業内容や運転者の身長に合わせ 2 段階に調整できます。ハンドルの高さ調整のみ行う場合は、手順①、③、④を行ってください。

⚠注意

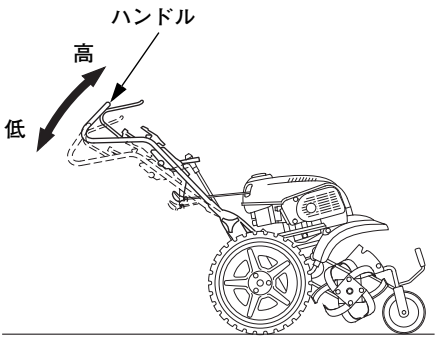
ハンドルの準備は平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（55 頁参照）

ハンドルの起こしかた

① 左右のハンドル高さ調整ダイヤルをゆるめます。
② 右側のハンドル支点部分を外側に引きながら、ハンドルを起こします。



③ ハンドルを使いやすい高さに合わせます。
④ 左右のハンドル高さ調整ダイヤルを確実に締付けます。



取扱いのポイント

ハンドルのガタがないようにハンドル高さ調整ダイヤルは確実に締付けてください。

- ハンドルをたたむときは手順①、②、④を逆の手順で行い、ハンドル高さ調整ダイヤルを確実に締付けてください。

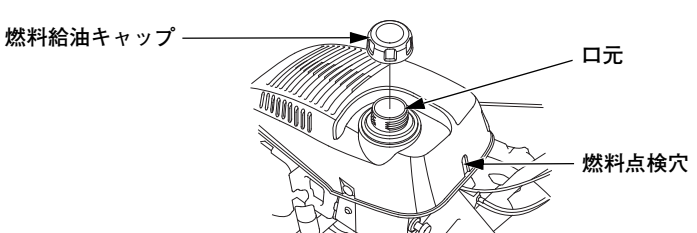
燃料の点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。
  燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地した状態にして燃料点検穴から、燃料の量を確認します。
少ない場合は燃料給油キャップを外し、給油限界位置を越えないように補給してください。（24 頁参照）



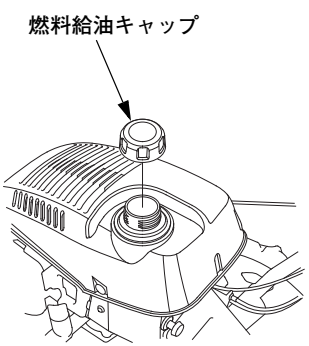
補給

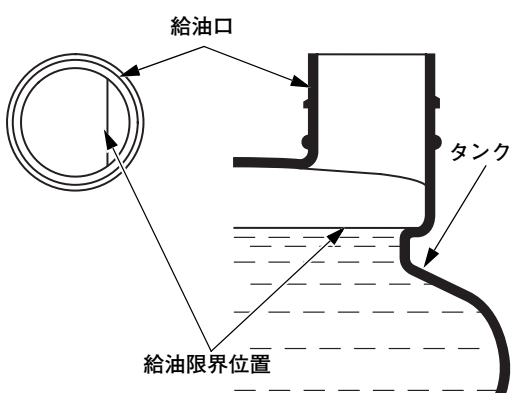
使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 本機を耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地した状態にして燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置を超え補給すると、本機が傾斜したときに燃料給油キャップから燃料が漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいに回してください。キャップ取付け部より燃料漏れがないことを確認してください。

取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので 30 日に 1 回､定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

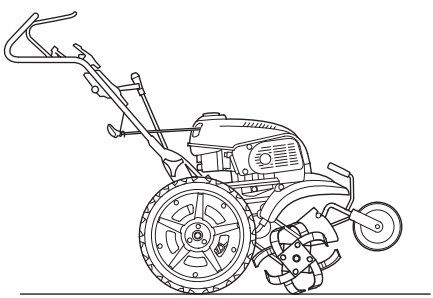


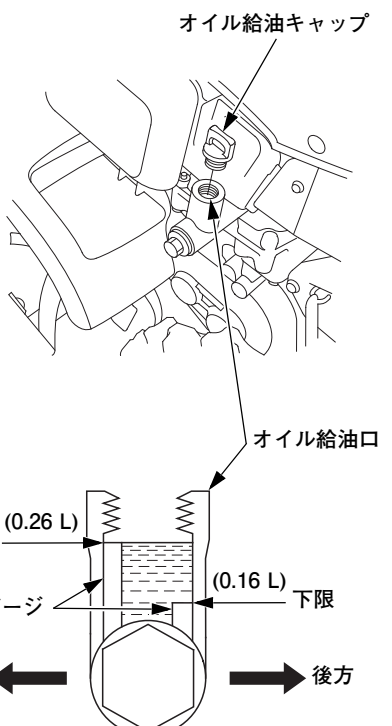


エンジンオイルの点検

点検

1. エンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外します。(55 頁参照)
2. 平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地した状態にします。
3. オイル給油キャップを外し、オイル給油口内側のレベルゲージでオイル量を確認します。
   - 油面が下限に近いときには、上限までオイルを補給してください。(26 頁参照)
   - エンジンオイルの汚れ、変色を確認します。汚れや変色が著しい場合は、エンジンオイルを交換してください。(交換方法は 49 ～ 51 頁参照)
4. 点検後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
5. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。

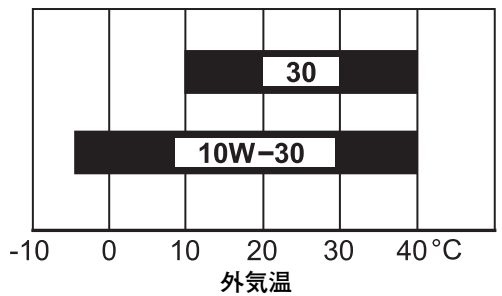




補給

- 少ないときには、平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地状態にして、新しいエンジンオイルを上限まで補給します。
- 補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
  または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表に
もとづきお使いください。

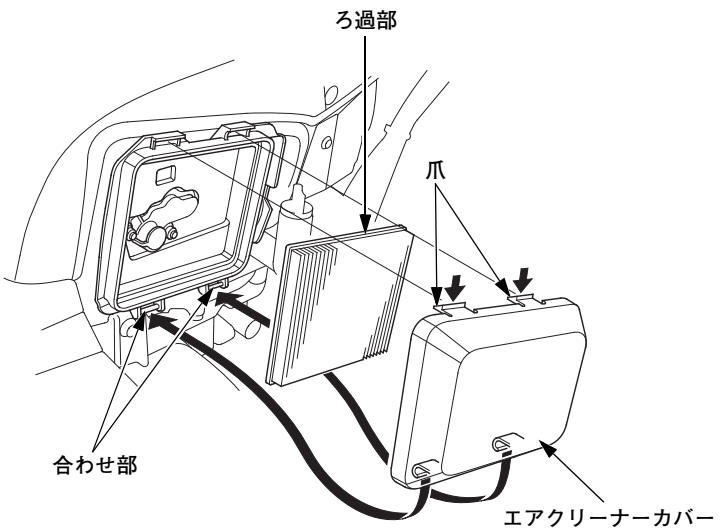


取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の点検

・エアクリーナーカバーを外し、ろ過部の汚れを確認します。
　エアクリーナーカバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、
　下部の合わせ部を離して行ないます。
・汚れている場合は清掃してください。（清掃方法は 52 頁参照）



取扱いのポイント

・エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・エアクリーナーカバーやろ過部（紙製）を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

耕うん深さ（耕深）の調整

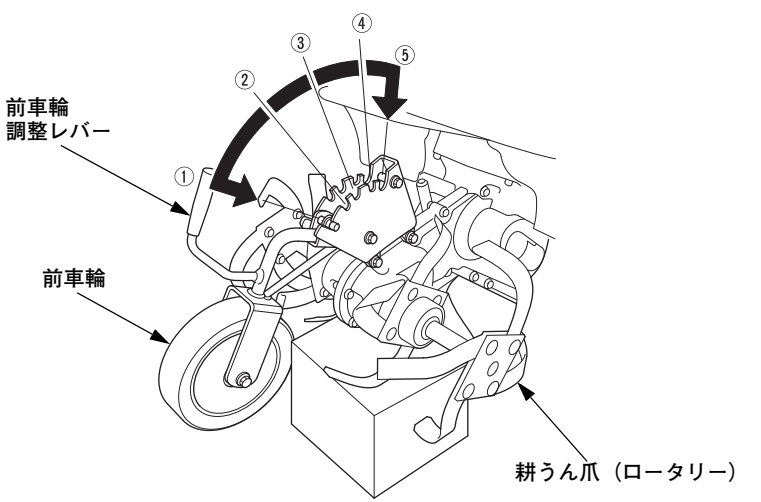
耕うん深さ（耕深）は前車輪を前方に引き、上に持ち上げて調整します。

> ⚠注意
> 調整は平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（55 頁参照）

調整のしかた

1. 耕うん爪（ロータリー）軸の下に台を置くなどして本機が動かないように固定します。
2. 前車輪調整レバーを握りながら前方に引き、上に持ち上げて適正なくぼみ（②～⑤）に確実にはめ込みます。

① ･･･････ 移動するときの位置（地面よりロータリーが約 40 mm アップ）
② ･･･････ 耕うん深さを最も浅くする（耕深約 20 mm）
③ ･･･････ 耕うん深さを浅くする（耕深約 60 mm）
④ ･･･････ 耕うん深さを深くする（耕深約 120 mm）
⑤ ･･･････ 耕うん深さをより深くする（耕深約 160 mm）



- 土が柔らかくて耕うん爪（ロータリー）が潜ってしまうときや土が硬いときには、耕うん深さを浅くしてください。
- LHTS タイプでニューM 型ヒッチにアタッチメント（作業機）を取付けて作業するときは、前車輪の高さを②または③の位置にしてください。

耕うん幅の調整

耕うん幅の標準は、幅広です。耕うん幅を狭くする場合は、外側の耕うん爪（ロータリー）を外して行います。

- 耕うん幅と後車輪の車輪幅は、広狭を同じにしてください。また、左右の広狭を同じにしてください。
- 耕うん幅を狭くすると、逆回転する外側の耕うん爪（ロータリー）が外されるため、正回転のみの耕うんとなります。

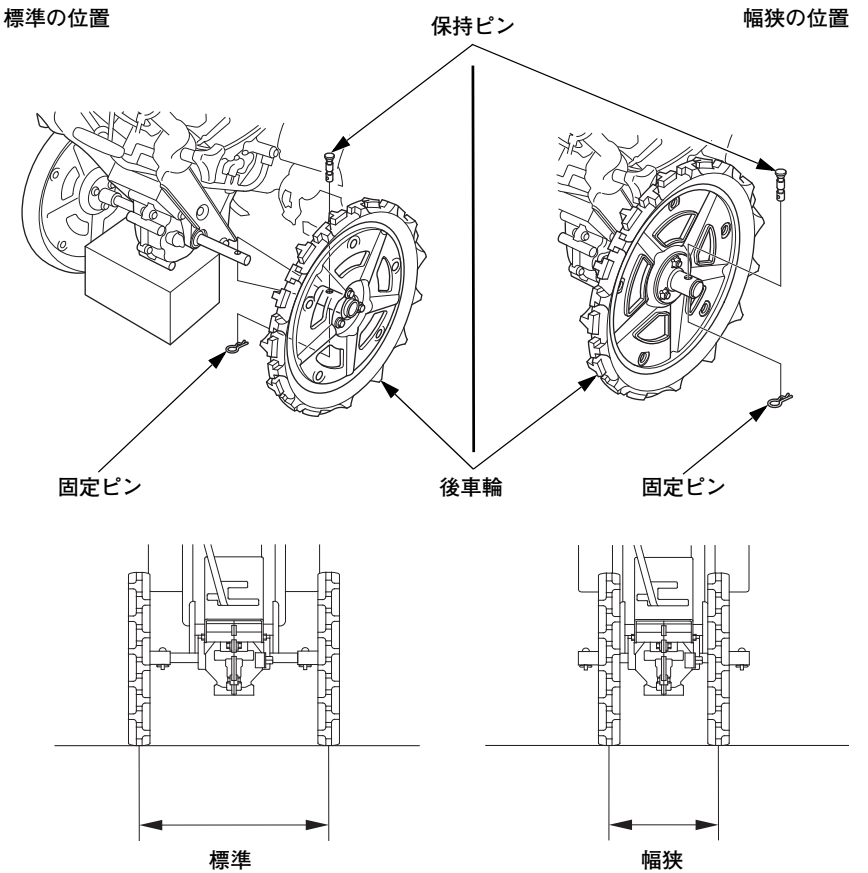
⚠注意

- 調整は、平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（55 頁参照）
- 耕うん幅の調整は、厚手の手袋を着用して行ってください。

1. 前車輪を「移動するときの位置」にします。（28 頁参照）
2. 外側の耕うん爪（ロータリー）を取外し、または取付けます。取外しは 61 頁を参照し、取付は 62、63 頁を参照してください。
3. 前車輪を「移動するときの位置」以外にして、耕うん爪（ロータリー）を接地させます。
4. 後車輪の車輪幅を耕うん幅に合わせて変更します。（30 頁参照）

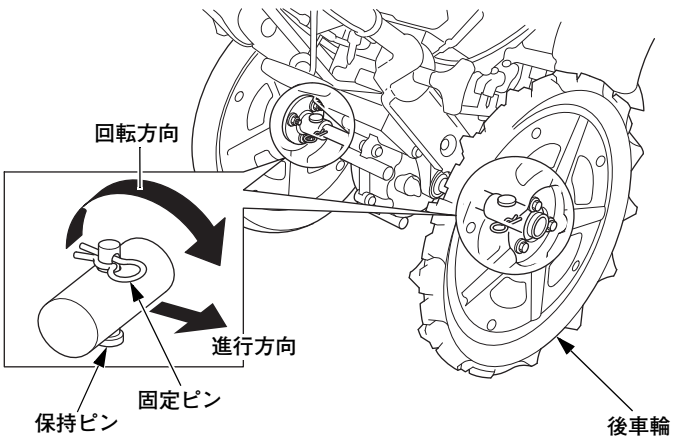
後車輪の車輪幅変更：

1. 後車輪軸の下に台を置くなどして車輪を浮かせて本機が動かないように固定します。
2. 固定ピン、保持ピンを抜き車輪を外し、車輪を反転させて、保持ピン、固定ピンで固定します。逆側の車輪も同様に反転させます。



後車輪取付けピンの点検

保持ピン、固定ピンが確実に取付けられていることを確認します。
保持ピンは、異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。折れたり、付いていない場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご相談ください。

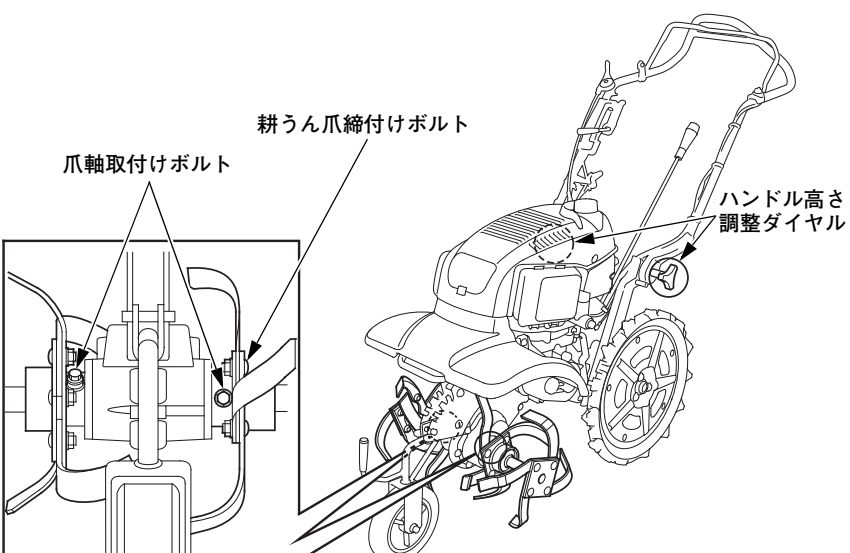


耕うん爪（ロータリー）、ハンドル高さ調整ダイヤルの締付け点検

⚠注意
- 点検は平坦な場所でエンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（55 頁参照）
- 耕うん爪（ロータリー）部の点検、締付けは厚手の手袋を着用して行ってください。

締付け箇所のゆるみやガタがないことを確認します。ゆるみやガタがあれば確実に締付けてください。

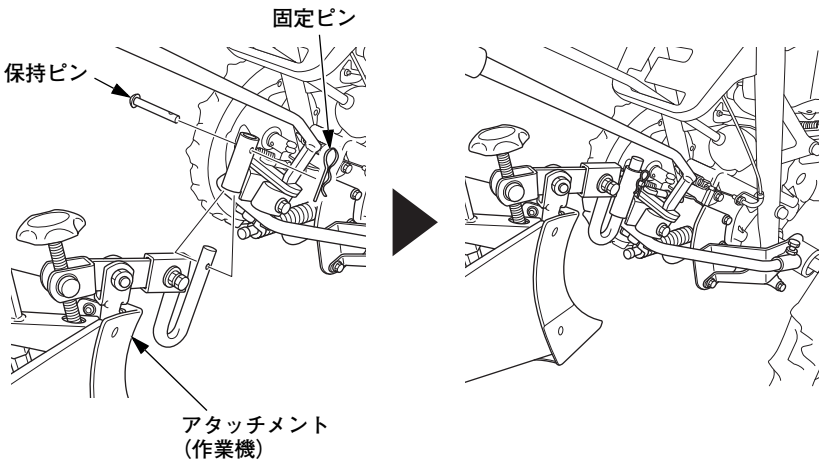
締付け箇所
- 耕うん爪締付けボルト
- 爪軸取付けボルト
- ハンドル高さ調整ダイヤル



アタッチメント（作業機）の取付け（LHTS タイプ）

ニュー M 型ヒッチにアタッチメント（作業機）を取付けます。

1. ニュー M 型ヒッチの固定ピン、保持ピンを外します。
2. ニュー M 型ヒッチにアタッチメント（作業機）を取付け、ガイド穴を合わせて保持ピン、固定ピンで固定します。

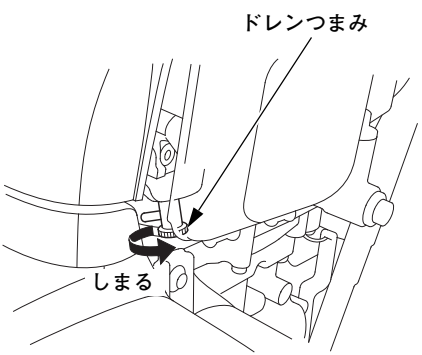


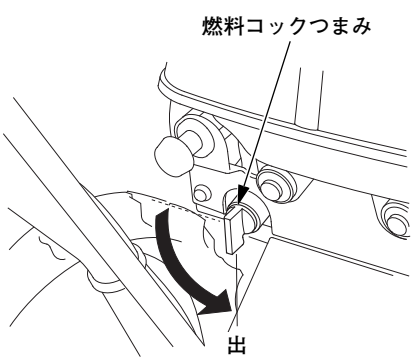
エンジンのかけかた

⚠警告

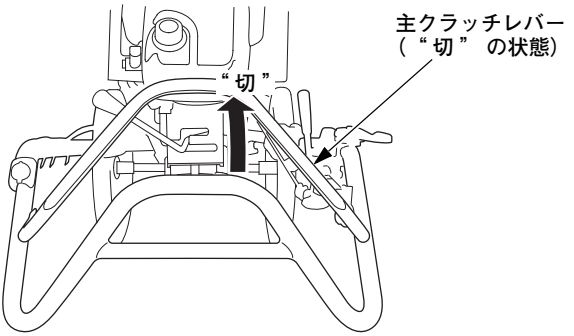
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジン始動は、平坦な場所で行ってください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラーの排気方向に燃えやすいものがないことを確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが “切”、変速レバーが “中立” になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

1. ドレンつまみが確実にしまっていることを確認してください。燃料コックつまみを “**出**” にします。

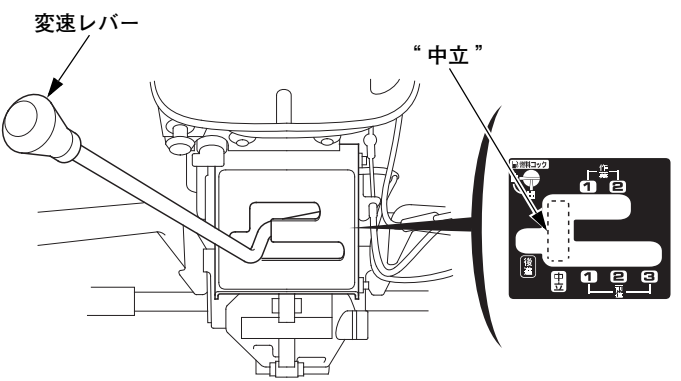




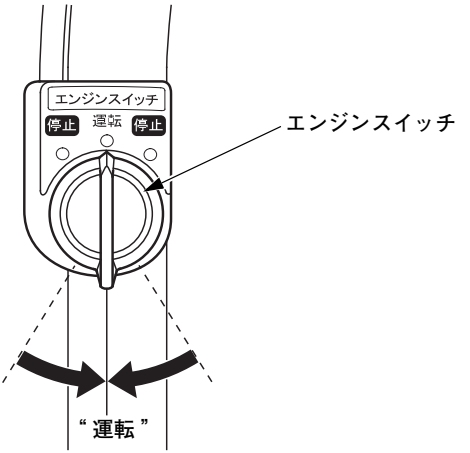
2. 主クラッチレバーが “**切**” になっていることを確認してください。



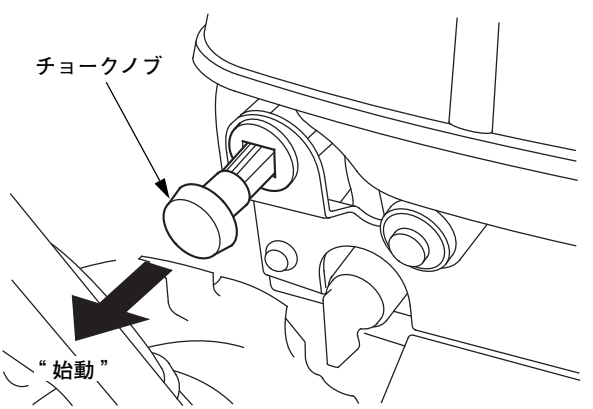
3. 変速レバーが “**中立**” になっていることを確認してください。



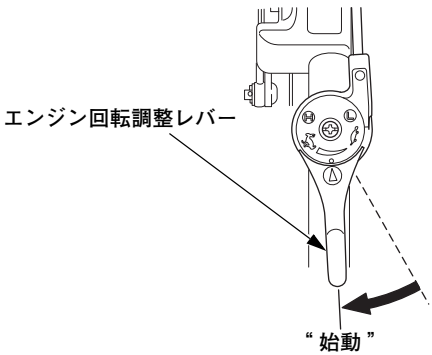
4. エンジンスイッチを “**運転**” の位置にします。



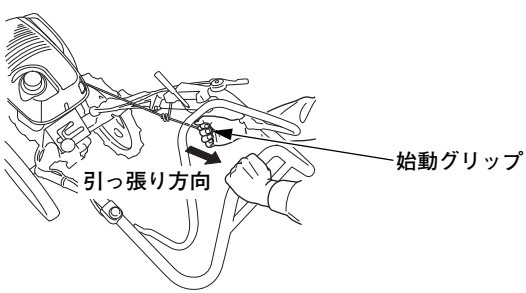
5. 寒い時やエンジンがかかりにくいときには、チョークノブを “**始動**” の位置にします。



6. エンジン回転調整レバーを “始動” の位置に合わせます。



7. 始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。
次に矢印の方向に強く引っ張ります。
始動グリップは手を添えて静かに戻してください。



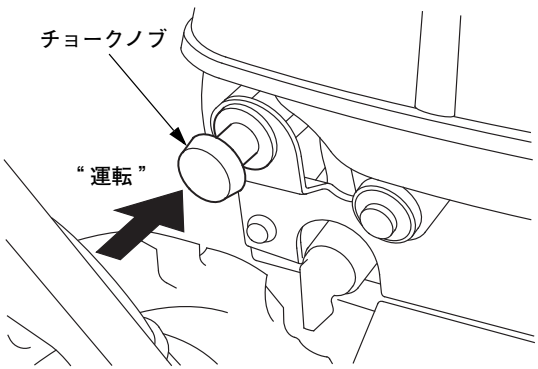
⚠注意

始動グリップを引くときは、主クラッチレバーを握らないでください。また、引っ張る方向に人や障害物が無いことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

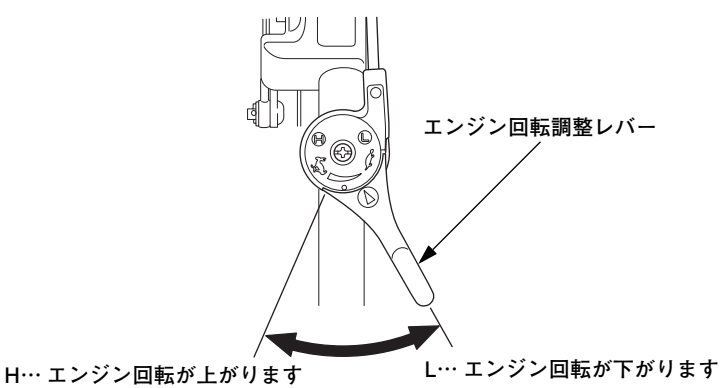
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. エンジンが始動します。
9. エンジンが始動したら、２～３分間暖機運転を行います。チョークノブを“**始動**”にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“**運転**”の方向に戻します。



エンジン回転は、作業に応じて調整してください。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず “安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう” の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

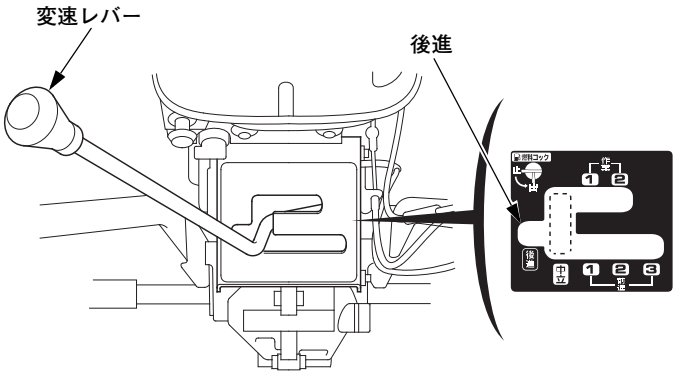
使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを 停止し、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお問い合わせください。

変速

- 変速レバー
  変速表の適応作業に合わせ変速位置を選びます。
  速度が速すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上がり等に弊害が出ます。
- 変速の要領
  - 変速レバーは、必ず主クラッチレバーを放してから操作します。
  - 変速レバーが作動しにくい時にはいったん主クラッチレバーを握った後、主クラッチレバーを放しもう一度操作します。
  - 後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。

取扱いのポイント

- 後進するときは次の指示に従ってください。
  - 後方に人や障害物がないことを確認してください。
  - エンジン回転を下げてください。
  - ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
  - 主クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。
- 前進 3 速は車速が速いので、変速操作はエンジン回転数を下げた状態で主クラッチレバーをゆっくり握ってください。
- エンジン回転数が高い状態で主クラッチレバーを急に握ると、本機が急発進します。
- 傾斜地では変速レバーを中立にしないでください。中立にすると駆動力が切れ、本機が思わぬ動きをすることがあります。



変速表（エンジン回転数 4,000 rpm 時）

変速位置		車速	ロータリー回転数	適応作業
前進	1	0.15 m/s	―	移動、トラックへの積込み、ほ場への出入
	2	0.29 m/s	―	移動
	3	0.94 m/s	―	
作業	1	0.15 m/s	131 rpm	耕うん、培土、中耕、除草
	2	0.29 m/s		
後進		0.34 m/s	―	移動、トラックからの積降ろし、ほ場への出入

運転

• 主クラッチレバー

主クラッチレバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

主クラッチレバーの握りかたは、下図の３とおりあります。作業内容や身長に合った適正な握りかたで操作してください。

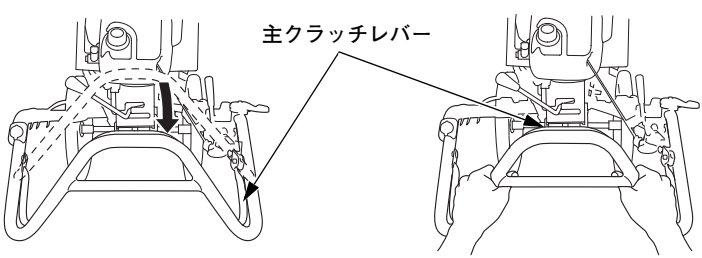
⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ずハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

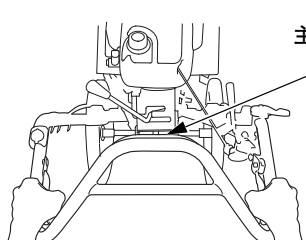
走行

主クラッチレバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。

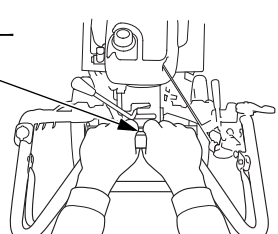
握りかた１（主な作業：耕うん）



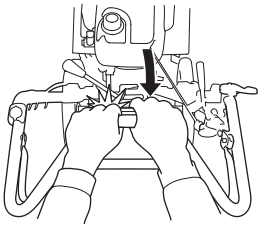
握りかた２（主な作業：中耕、培土）



握りかた３（主な作業：移動、旋回）

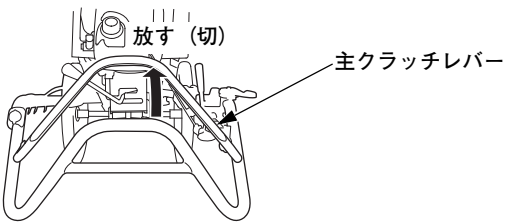


主クラッチレバーを操作するときは、ハンドルと主クラッチレバーで手をはさまないように注意してください。



停止

主クラッチレバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。

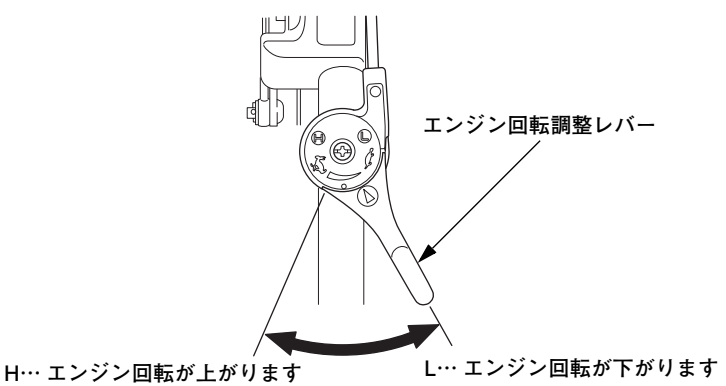


取扱いのポイント

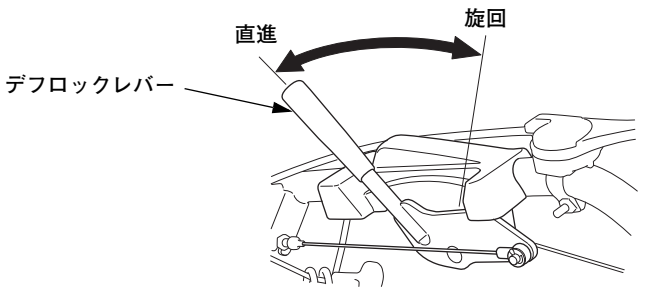
- 主クラッチレバーの操作は、静か（スムーズ）に行ってください。
- 急激な操作を行うと、本機が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

• エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて調整してください。



• デフロックレバー
通常は “**旋回**” の位置で使用してください。旋回性が向上します。
柔らかくて片輪スリップしやすい畑や、片輪だけが耕した所を通る場合に “**直進**” にします。直進性が向上します。
レバーの切替えは主クラッチレバーを “**切**” 位置にし、本機が止った状態にしてから行ってください。



取扱いのポイント

- 移動時はデフロックレバーを “旋回” にしてください。
- 主クラッチレバーを握ったままでデフロックレバーを操作するとデフロック機構が損傷する場合があります。デフロックレバーは主クラッチレバーを “切” の位置にして操作してください。
- 坂道や傾斜地での走行はデフロックレバーを “直進” の位置で行ってください。

• 旋回（移動時）

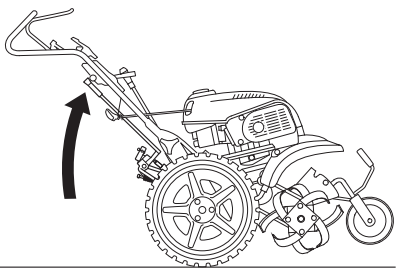
⚠警告

- 高速運転時に旋回すると本機が急旋回し、走行が不安定となり傷害事故を起こすおそれがあります。
- 上り坂や下り坂では旋回しないでください。坂道で旋回すると思わぬ方向に急旋回したりし、事故、ケガ、本機の故障をまねくおそれがあります。

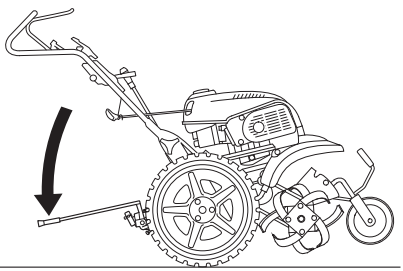
デフロックレバーを “**旋回**” の位置でエンジン回転を下げゆっくり旋回してください。
本機にニューM型ヒッチを取付けているときは、旋回時にはニューM型ヒッチハンドルを上げてください。

• ニュー M 型ヒッチ（LHTS タイプ）
ニュー M 型ヒッチにアタッチメント（作業機）を取り付けて作業するときは、ニュー M 型ヒッチハンドルを下げてください。
ニュー M 型ヒッチからアタッチメント（作業機）を取外したときやアタッチメント（作業機）を使用しないで移動、旋回するときは、ニュー M 型ヒッチハンドルを上げてください。

ニュー M 型ヒッチに取付けたアタッチメント（作業機）を使用しないとき



ニュー M 型ヒッチに取付けたアタッチメント（作業機）を使用するとき



耕うん作業

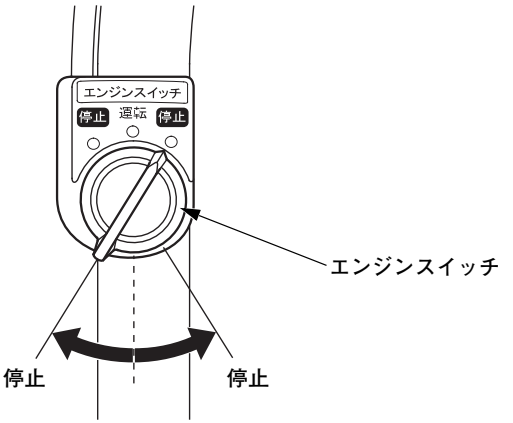
⚠注意
- 一度に深く耕すと本機が急に前に飛び出すことがあります。
- 耕うん中、爪に石などの固い物が当たったりするとハンドルが持ち上がったり、本機が急に前へ飛び出すことがあるので注意してください。
- 本機後方中央に立ち、必ずハンドルを持ってください。
  バランスをくずし思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

- 硬いほ場での耕うんは、一度に深く耕うんしないで２～３回掛けしてください。無理にハンドルを押しつけないでください。
- 旋回するときは：
  主クラッチレバーを放しエンジン回転を低速にします。**デフロックレバーを“旋回”**位置にしてください。変速レバーを**“前進１速”**にし主クラッチレバーを握りハンドルを押し下げ耕うん爪（ロータリー）が少し浮くようにしてゆっくり旋回してください。旋回が終了したら一度、主クラッチレバーを放し変速レバーを**“作業”**の位置にし、耕うん作業に戻ってください。
- 一度耕うんした後車輪の跡に、片側の後車輪を合わせて耕うん作業すると、起こし残しなく耕すことができます。

エンジンのとめかた

緊急停止の場合

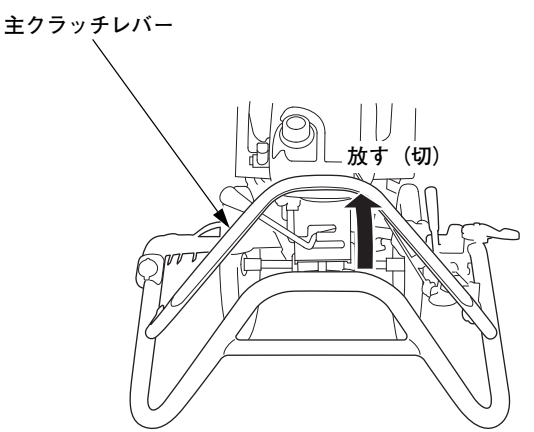
エンジンスイッチを “**停止**” に合わせます。



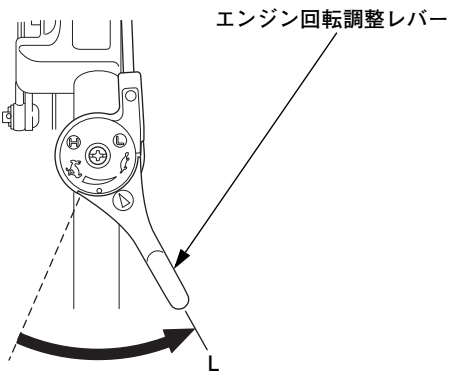
- エンジンスイッチを使って本機を緊急停止させた場合は再び始動する前に変速レバーを “**中立**” の位置にしてください。

通常停止の方法

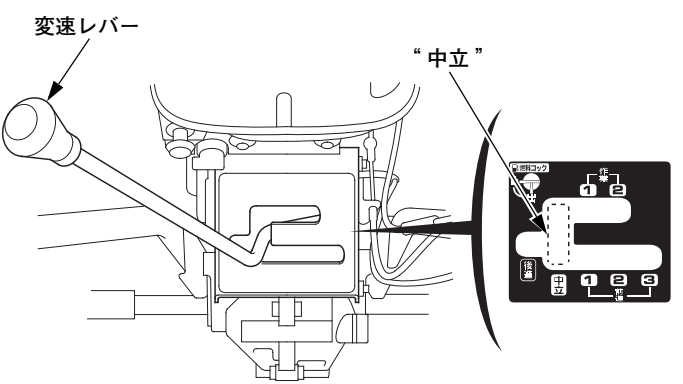
1. 主クラッチレバーを放して “**切**” にします



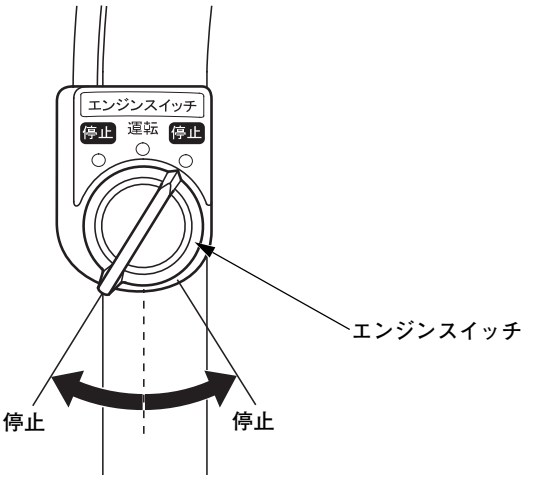
2. エンジン回転調整レバーを “L” の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



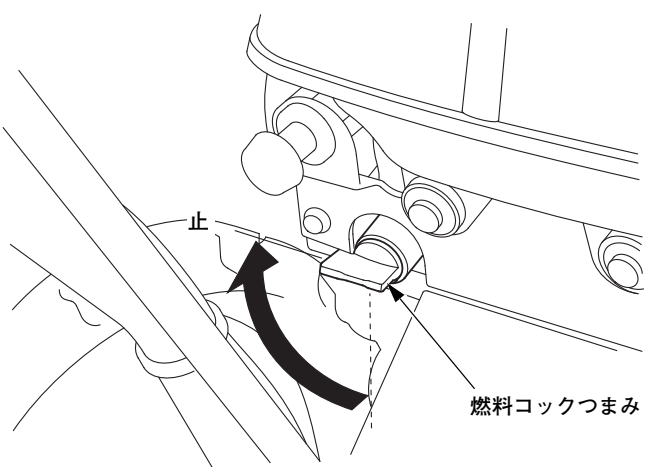
3. 変速レバーを “**中立**” の位置にします。



4. エンジンスイッチを “**停止**” に合わせます。



5. 燃料コックつまみを “**止**” にします。



定期点検を行いましょう

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行ないましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転目	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検、補給		○					25, 26
	交換	○		○		○（4）		49
エアクリーナー	点検		○					27
	清掃				○（2）			52
	交換						○	52
本機のまわり	点検		○					20
主クラッチレバーの作動	点検		○					20
レバー類の作動	点検		○					20
各部の締付け	点検		○					20
ハンドル高さ調整ダイヤルの締付け	点検		○					32
配線、ケーブル類	点検		○					20
エンジンの始動、停止	点検		○					20
変速機オイル	点検	○						54
クラッチケースオイル	点検	○						53
クラッチシュー	点検						○（3）	－
点火プラグ	点検、調整					○		55
	交換						○	55
エンジン回転調整ケーブル	点検、調整						○	57
主クラッチケーブル	調整			○		○		58
デフロックレバーケーブル	調整			○		○		59
アイドル回転	点検、調整						○（3）	－
吸入、排気弁のすき間	点検、調整						○（3）	－
燃焼室	清掃	300 時間運転毎（3）（5）						－
燃料タンクおよびフィルター	清掃	○（3）				○（3）		－
燃料チューブ	点検	2年毎〈必要なら交換〉（3）						－

（1）点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（2）ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（3）適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお申しつけください。
（4）高負荷、高温で使用した場合、エンジンオイルは50時間運転毎に交換してください。
（5）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

点検・整備のしかた

作業を始める前に、作業内容を確認ください。ご自身で実施できない場合、お買いあげ販売店またはサービス指定店にご相談ください。

⚠警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外して行ってください。(55 頁参照)

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

取扱いのポイント

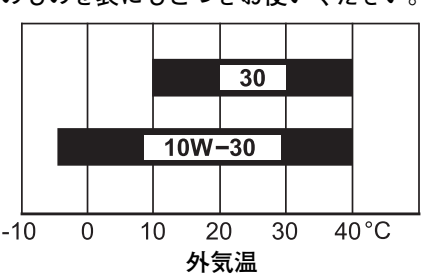
本機を横倒しにしないでください。オイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。

17 mm のレンチ類をご用意ください。レンチ類は装備されていません。

《推奨オイル》
Honda 純正ウルトラ U 汎用 (SAE 10W-30) または API 分類 SE 級以上の SAE 10W-30 オイルをご使用ください。

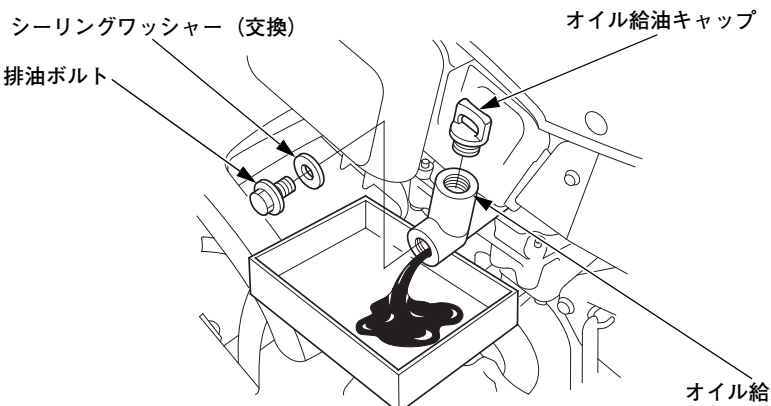
《エンジンオイル量》0.26 L

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

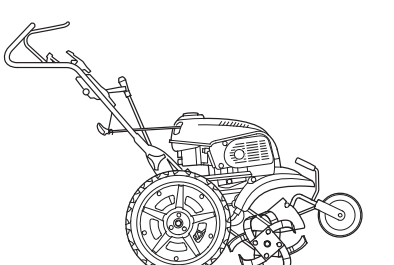


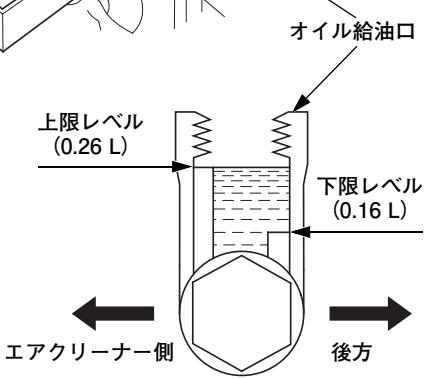
交換のしかた

1. エンジンを停止させます。(45 頁参照)
2. エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外し（55 頁参照)、平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地した状態にします。
3. オイル給油キャップ、排油ボルトおよびシーリングワッシャーを外してオイルを抜き、適切な容器に受けます
4. 排油ボルトを洗い油できれいに洗い、新品のシーリングワッシャーを使用し、確実に締付けます。



5. 平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地した状態にし、新しいエンジンオイルを給油口のレベル位置を確認しながら上限まで注入します。





6. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。
7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
8. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。

取扱いのポイント

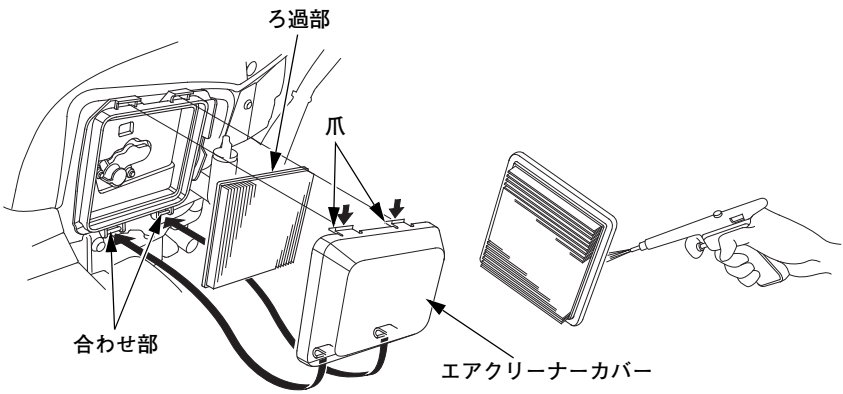
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ず平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地した状態にして、オイルを給油してください。
- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エアクリーナー（空気清浄器）の清掃

エアクリーナー（空気清浄器）が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

清掃のしかた

1. エアクリーナーカバーを取外し、ろ過部を取外します。
   エアクリーナーカバーの取外しは、爪を押しながら上部を外した後、下部の合わせ部を離して行います。
2. ろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。
   ・著しく汚れがひどい場合は交換してください。
3. エアクリーナーカバーを取付けます。
   エアクリーナーカバーの取付けは、下部２か所の合わせ部を組付け後、上部の爪を確実に組付けて行います。



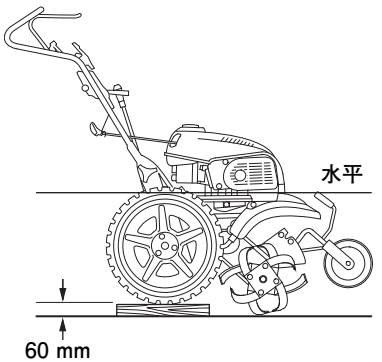
取扱いのポイント

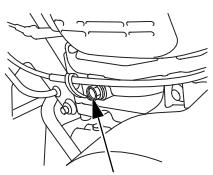
- エアクリーナーカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナーカバーやろ過部を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

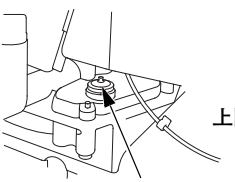
クラッチケースオイルの点検

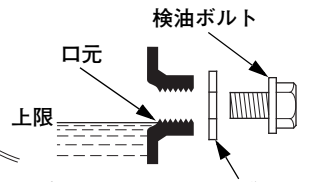
点検

1. エンジンを停止させます。(45 頁参照)
2. エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外します。(55 頁参照)
3. 平坦な場所で、耕うん爪を接地し、後輪を 60 ㎜ 高くして、エンジン締付け座面を水平にします。
4. 検油ボルトを外し、検油ボルト穴の口元までオイルがあることを確認します。少ない場合は補給してください。




検油ボルト


オイル給油キャップ



補給

指定オイル： Honda 純正ウルトラ LEO（SAE 0W-20）
または API 分類 SL 級以上の SAE 0W-20 オイルをご使用ください。

《クラッチケースオイル容量》0.2 L

5. オイル給油キャップを外し、新しいオイルを検油ボルト穴の口元まで補給します。
6. 補給後、オイル給油キャップ、シーリングワッシャーと検油ボルトを確実に取付けてください。
7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
8. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。

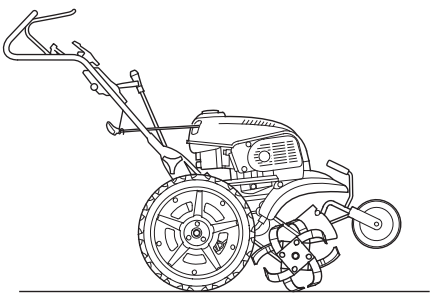
取扱いのポイント

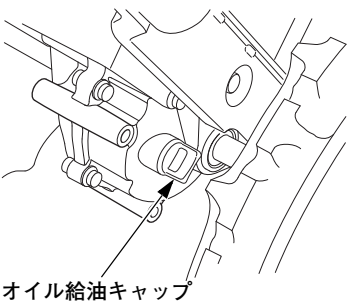
オイル給油キャップは確実に取付けてください。取付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

変速機オイルの点検

点検

1. エンジンを停止させます。(45 頁参照)
2. エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外します。(55頁参照)
3. 平坦な場所で本機を耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地した状態にします。
4. オイル給油キャップを外し、口元までオイルがあることを確認します。少ない場合は補給してください。



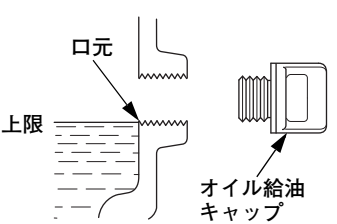


補給

指定オイル： Honda 純正ウルトラ U 汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

《変速機オイル容量》1.8 L

5. 新しいオイルを口元まで補給してください。
6. 補給後、キャップは確実に締付けてください。
7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
8. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

点火プラグの点検・調整・交換

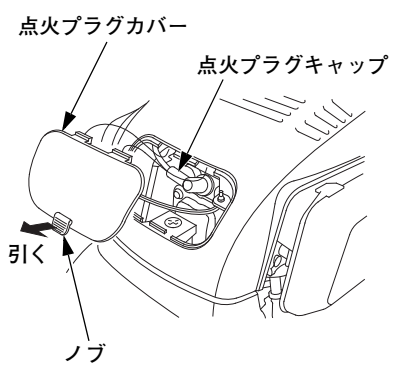
電極が汚れたり、火花すき間が不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

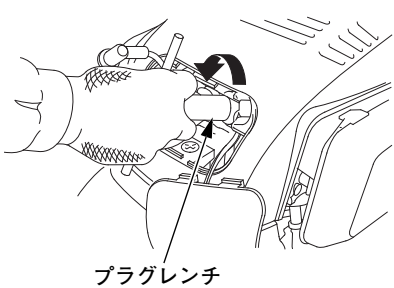
⚠注意

エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

点検・清掃のしかた

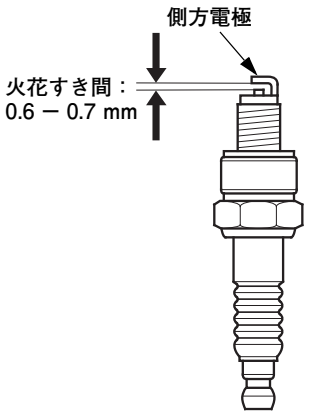
1. エンジンを停止し、エンジンカバーの前面にある点火プラグカバーのノブを引っぱって外し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを取外します。
2. プラグレンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを点検・清掃します。
   点火プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス指定店をご利用ください。
   プラグクリーナーが無いときは、針金かワイヤーブラシで汚れを落としてください。





調整のしかた

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
   火花すき間：0.6 － 0.7 mm



《標準プラグ》
C4HSB (NGK)　U14FS-UB (DENSO)

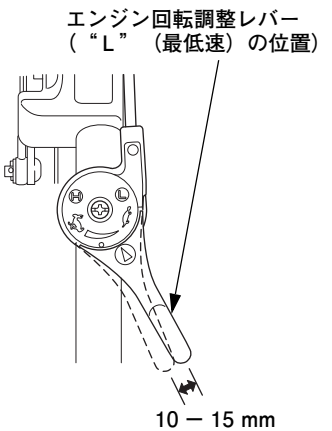
5. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
6. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。

取扱いのポイント

- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・清掃・調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

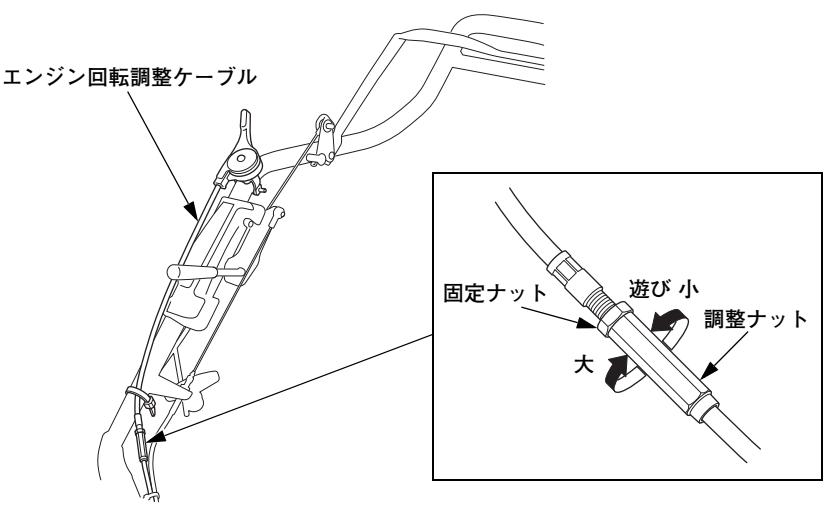
エンジン回転調整ケーブルの点検・調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。



調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを“L”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：10 − 15 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットを回して行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



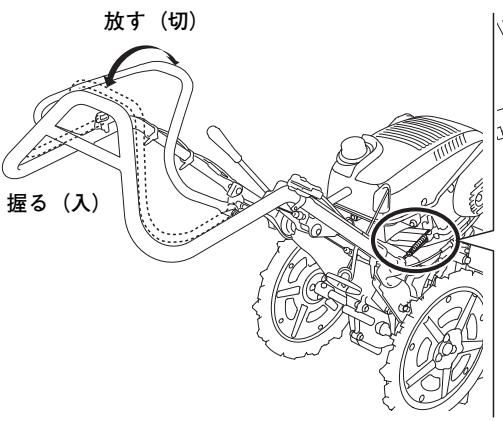
主クラッチケーブルの調整

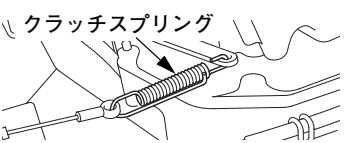
主クラッチケーブルの調整が完全でないと、主クラッチの切れが悪くなったりクラッチがすべったりします。

調整のしかた

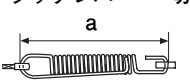
1. 主クラッチレバーを操作し、“ 切 ” の位置と “ 入 ” の位置にしたときのスプリング長を測定します。
2. 主クラッチレバーを “ 入 ” の状態にしたときにクラッチスプリングの伸び量が下記寸法になるように調整します。

伸び量：A（入）－ a（切）＝ 2±0.5 mm

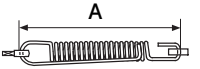




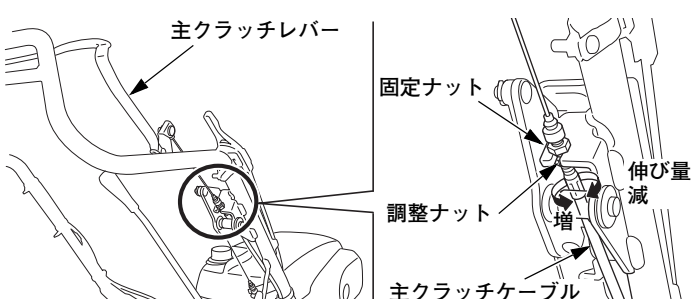
《主クラッチレバー “ 切 ”》



《主クラッチレバー “ 入 ”》



3. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。
   調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

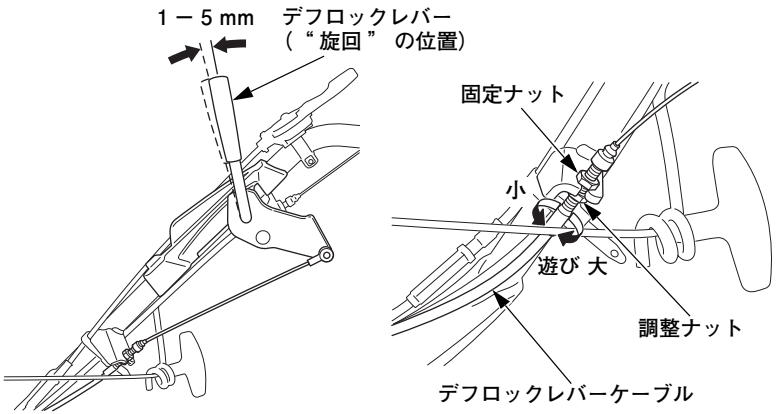


デフロックレバーケーブルの調整

デフロックレバーケーブルの調整が完全でないと、デフの切替えができなくなることがあります。

調整のしかた

1. デフロックレバーを “旋回” にしてレバーの遊びが、先端で下記寸法になるように調整します。
   遊び：1 － 5 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットを回して行います。



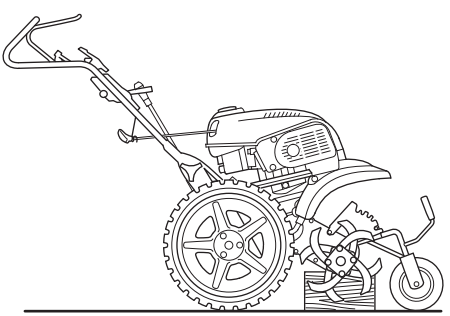
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

耕うん爪（ロータリー）の点検・交換

⚠注意

- 点検、交換は平坦な場所でエンジンを止め、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。（55 頁参照）
- 手にケガをしないよう厚手の手袋を着用してください。
- 万一の落下にそなえて、耕うん爪軸の下に木の台などを置いてください。
- この耕うん爪は、内側と外側の爪が逆回転します。耕うん爪の点検や交換をする場合は爪の動きに十分注意してください。耕うん爪が思わぬ方向に回転しケガをするおそれがあります。
- 耕うん爪の配列や向きを変えると、本機が後方や思わぬ方向に進行し、ケガをするおそれがあります。

- 点検、交換の前に前車輪を運搬・移動の位置にし、耕うん爪（ロータリー）軸の下に台を置くなどして本機を固定します。



点検のしかた

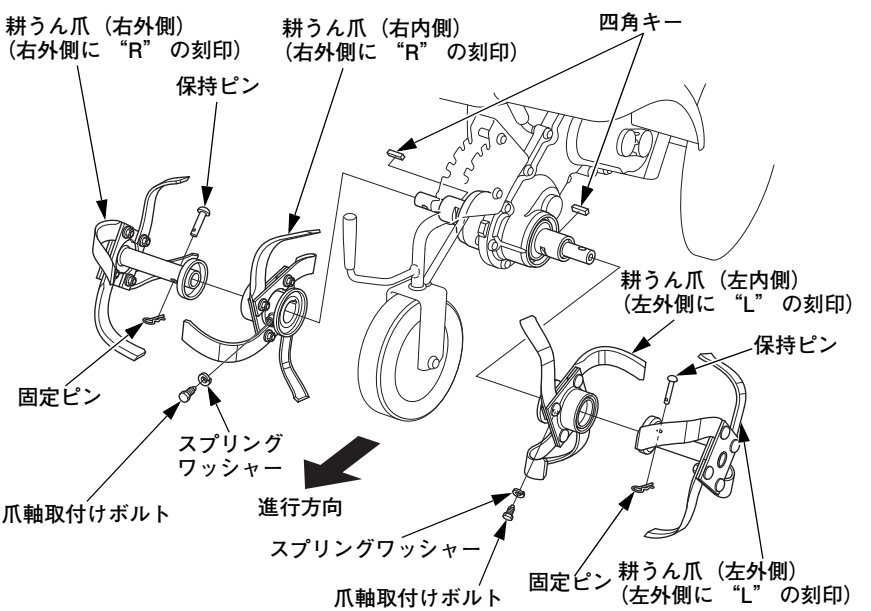
1. 耕うん爪（ロータリー）の損傷、曲がりがないことを確認してください。もし異常があったときは交換してください。
2. 耕うん爪軸の保持ピン、固定ピンに脱落、変形がないことを確認してください。必要であれば新しいピンと交換してください。
   保持ピンは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

取扱いのポイント

耕うん爪は Honda 純正部品を使用してください。

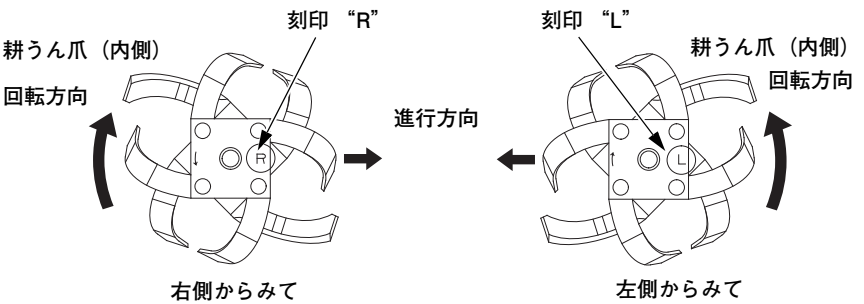
交換のしかた

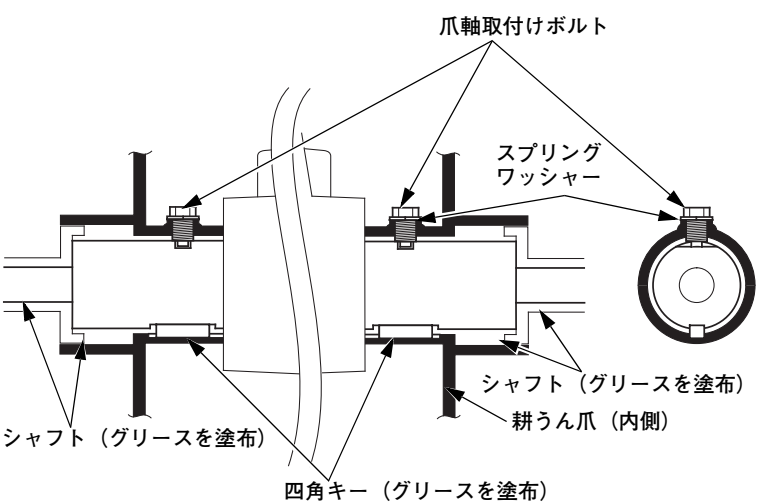
1. エンジンを停止し、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外します。(55 頁参照)
2. 外側の固定ピン、保持ピンを外し、外側の耕うん爪（ロータリー）を外します。
3. 爪軸取付けボルト、スプリングワッシャーを外し、内側の耕うん爪（ロータリー）を外します。シャフトの四角キーをなくさないようにしてください。

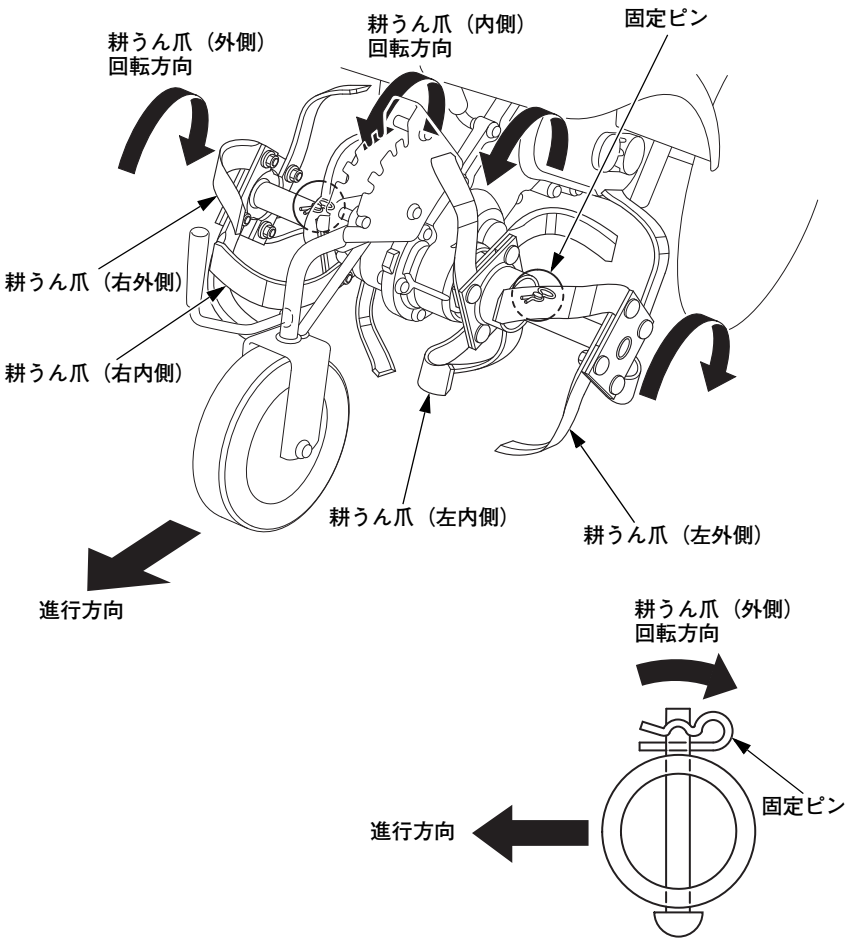


4. シャフトの外周と四角キーにグリースを塗布する。
5. シャフトのキー溝に四角キーを入れ、キー溝を合わせて耕うん爪（内側）を取付けます。
   スプリングワッシャー、爪軸取付けボルトで確実に取付けます。
6. 耕うん爪（外側）を取付け、保持ピン、固定ピンを取付けます。

- 耕うん爪にはそれぞれ “R” と “L” の刻印が打ってあります。進行方向に向かって右側には “R”、左側には “L” をそれぞれ外側から刻印が見えるように取付けます。
- 固定ピンは回転方向と逆方向から差し込んでください。







7. 点火プラグキャップを点火プラグへ確実に取付けます。
8. 点火プラグカバーをエンジンカバーへ取付けます。

使用後の手入れ

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラーなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

1. 本体や耕うん爪（ロータリー）部分についた土、わら、草や汚れなどを落としてください。

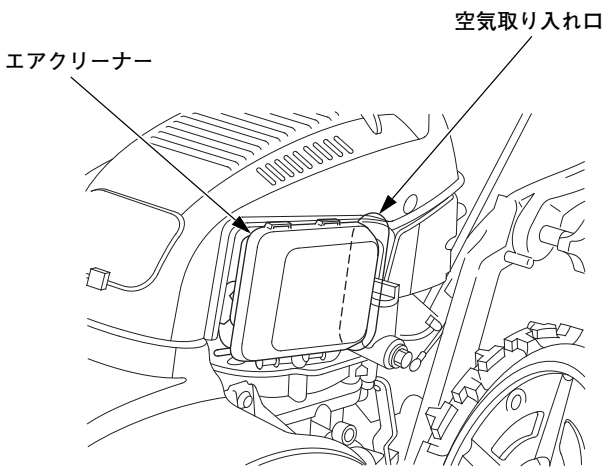
⚠注意

草や木の葉がエンジンの周囲に付着したままにしないでください。火災を起こす可能性があります。

2. エアクリーナーについた土やほこりを落としてください。

取扱いのポイント

洗車する場合はエアクリーナーの空気取入れ口や電装部品、エンジン周りに水がかからないように注意してください。水がかかると故障の原因となります。



長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30 日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。
- 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

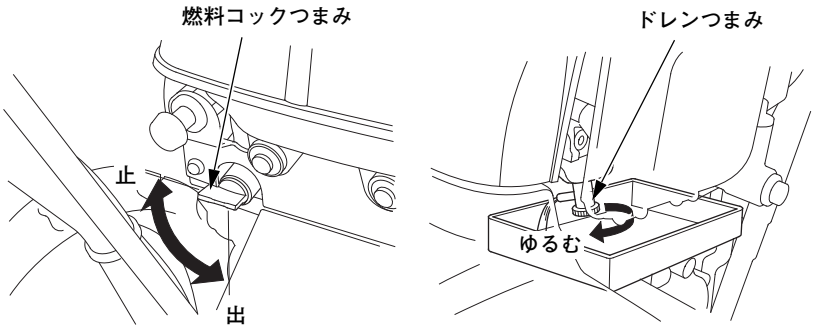
⚠警告
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

⚠注意
- 手入れを行う場合は、平坦な場所に本機を置き（耕うん爪（ロータリー）と後車輪が接地した状態）、エンジンを停止してください。誤ってエンジンがかからないように、エンジンが冷えてから点火プラグキャップを外して行ってください。(55 頁参照)
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてから手入れを行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

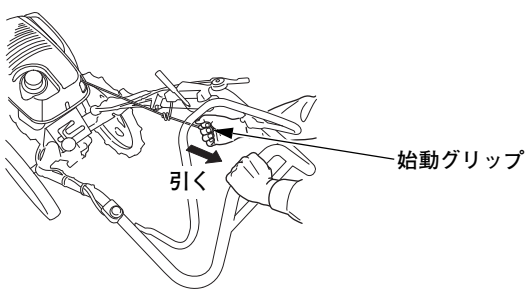
1. 本機各部の清掃を行います。
2. 燃料タンク、キャブレター内の燃料を下記の要領で抜きます。

抜きかた
1) 燃料コックつまみを “**出**” にします。
2) キャブレターのドレンつまみ（燃料排出用つまみ）を 1 ～ 2 回転ゆるめ、キャブレターと燃料タンク内の燃料を抜きます。燃料は適切な容器で受けてください。

3) 完全に燃料が抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4) 燃料コックつまみを “**止**” にします。



3. エンジンオイルを交換します。(交換方法は 49 頁参照)
4. エアクリーナー (空気清浄器) を清掃します。(清掃方法は 52 頁参照)
5. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)



6. 主クラッチレバーを “**切**” にします。
7. チョークノブを “**始動**” の位置にします。
8. シートなどをかけ、風通しのよい湿気の少ない所に保管してください。

取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。
- 本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。水平以外の状態で本機を保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか？（34 ～ 38 頁参照）
2. ガソリンはありますか？（23、24 頁参照）
3. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？（55、56 頁参照）

主クラッチ、デフロックが作動しない時は次の点を確かめましょう

4. 主クラッチケーブル、デフロックレバーケーブルの調整方法が取扱説明書通りですか？（58、59 頁参照）

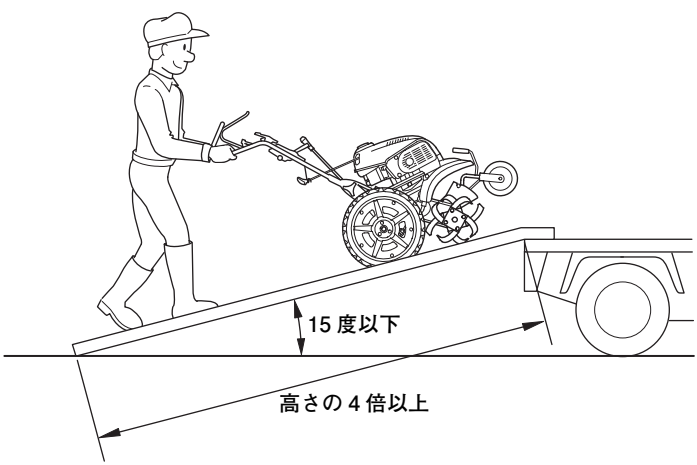
少し時間をおいてもう一度確めましょう

車への積載のしかた

車の荷台への積載

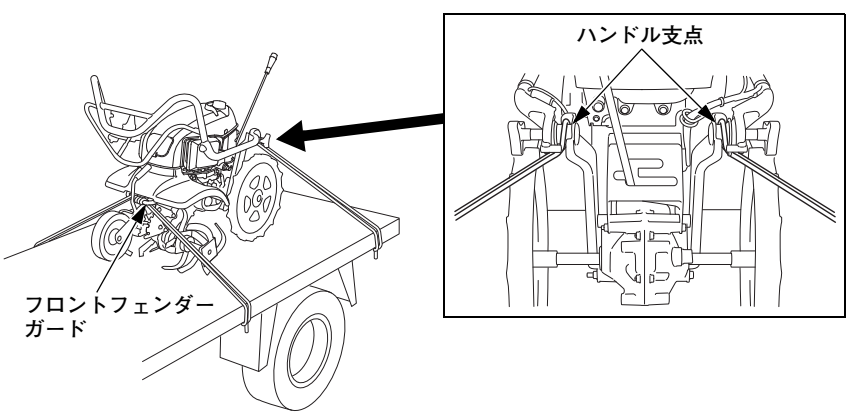
⚠警告
車（トラックなど）への積み降ろしをする場合は、必ず本機、作業機の重量に十分耐えられるアユミ板を使用し、低速で行なってください。転倒や落下によりケガをするおそれがあります。

1. 本機の寸法および重量の積載を満たす車（トラックなど）を使用してください。
2. 車（トラックなど）への積み降ろしは平坦な場所でアユミ板を使い転倒や落下に注意して行なってください。
3. アユミ板は、本機、作業機の重量に十分耐えられるもので、本機の傾斜角度が 15 度以下になる長さで、滑り止め、外れ防止フックのついた車輪幅以上の十分な幅がある丈夫なアユミ板を使用してください。（目安として車の荷台の高さの 4 倍以上の長さ）



4. アユミ板は車（トラックなど）に対してまっすぐに、しっかりとかけてください。
5. 車（トラックなど）にアユミ板を平行に並べ、アユミ板幅の中央位置で本機の左右の後車輪と一直線であることを確認してください。

6. 前車輪は最上段に合わせてください。(28 頁参照)
7. エンジンを始動し、2 ～ 3 分間暖機運転を行ってください。
(34 ～ 38 頁参照)
8. 耕うん爪（ロータリー）装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
9. デフロックレバーはかならず “**直進**” にしてください。
10. 積み込みは、前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
11. 変速レバーを前進 1 速または前進 2 速にし、本機をゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを絶対に放さないでください。
12. 積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを前進 1 速に入れてください。
13. 燃料コックは “**止**” にして運搬してください。
14. ハンドルをたたみ（22 頁参照）、ハンドル高さ調整ダイヤルを締付けてください。
15. フロントフェンダーガードとハンドル支点部分にロープなどをかけ、本機を固定します。
本機が変形するような過大な荷重でロープを締付けないでください。



16. トラックから本機を降ろすときは、後進で行なってください。後ろ向きで降りるため、後方の安全を十分確認してください。

主要諸元

名称		FF300S	
型式		ホンダ FF300	
区分		LT2S	LHTS
機体寸法	全長	1,465 mm	
	全幅	465 mm	
	全高	1,015 mm	
全装備質量（重量）		51 kg＊3	
エンジン	名称	GXV57T	
	形式	空冷４ストローク単気筒（OHV）	
	内径×行程	45.0 mm×36.0 mm	
	総排気量	57.3 cm^3	
	連続定格出力／回転速度	1.0 kW (1.4 PS)/4,000 rpm	
	エンジン最大出力／回転速度（SAE J1349 に準拠＊1）	1.5 kW (2.0 PS)/4,800 rpm	
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量	1.0 L＊2	
	エンジンオイル容量	0.26 L	
	点火方式	トランジスタ式マグネト点火	
	標準点火プラグ	U14FS-UB (DENSO) C4HSB (NGK)	
	始動方式	リコイルスターター	
主クラッチ方式		シュークラッチ	
変速段数	前進	3段	
	後進	1段	
	作業	2段	

＊1:ここに表示したエンジン出力は SAE J1349 に準拠して 4,800 rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

＊2：駆動車輪とロータリーが水平面に接地した状態を基準とする。

＊3：ニュー M 型ヒッチ未装着時の数値です。

オイル規定量（各オイル上限レベル）と燃料（タンク上限レベル）を含む数値です。

※ 諸元は予告なく変更することがあります。

メ　モ

メ　モ

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、
まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター
（イイフレアイオ）

フリーダイヤル　0120 － 112010

受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00
〒 351-0188 埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1) 製品名、タイプ名
(2) ご購入年月日
(3) 販売店名
(4) フレーム号機 _____（書込み控え欄）

この商品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA

FF300
30V19S01
00X30-V19-S010



© 2022 本田技研工業株式会社
Printed in Japan